

研究代表者 所属・職：健康科学部・助教

氏 名：坂口 大史

研究課題名：半田市「アイプラザ半田」の地域活性化に向けた利活用に関する研究

研究の目的

本研究では、アイプラザ半田とその周辺地域を研究対象として、周辺地域との交流も考慮しながら、施設の利活用について分析・提案することを目的とする。なお、本研究における提案では、アイプラザ半田における施設の空間利用計画、内装計画、活性化に向けたイベントや催しなどの提案に加えて、施設周辺の外構計画及び空き地利用計画等を行う。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

プロジェクト目標の達成状況・成果内容として以下の3つを報告する

①アイプラザ半田の利活用に関するハードとソフト両視点からの具体的な提案

本研究において、アイプラザ半田の施設空間の分析、施設利用者の属性分析を行った。それらの分析結果に基づいて、アイプラザ内の休憩室、庭空間、外構及び池空間、駐車場に対する建築的な改修提案を行った。これらに加えて、アイプラザの施設利用促進と更なる活性化を目指した仕組みづくりとして、施設活用に関してソフト面からの提案を行った。

②アイプラザ周辺施設との連携による回遊性の仕組みづくり

アイプラザ半田に対する施設改修提案に加えて周辺施設である、ミツカンミュージアム、半田運河、蔵のまち公園も含めた回遊性向上のための提案を行った。具体的には、蔵のまち公園の利用者増加を狙った公園の改修に加えて、半田運河一帯を利用したイベントについての提案を行った。

上記の成果について、2016年8月8日半田クラシティブィにて市民向け発表会を開催し、報告を行った。

優れた成果があがった点

②に関連して、半田運河一帯を活用したイベント「Canal Night 五感が漂う夜の半田運河」を共同で開催した。本イベントは、半田運河周辺に自作の灯籠を配し、飲食店舗、蔵のまち公園での交流空間、運河に光の玉を浮かべるなどの一体的な活性化イベントの企画を行った。結果として、2日間を通して、数千名の来場者が訪れるなど大きな盛り上がりを見せた。本イベントは、②で提案した「半田運河周辺施設への回遊性を生み出す仕組みづくり」に関わる取り組みの実践の機会として貴重な成果を得られただけでなく、本イベントを今後も継続的に開催していく予定である。この点からも、半田市における持続的な市街地活性化とそれらの仕組みづくり構築に資する成果にもなったといえる。

研究期間終了後の今後の展望

今後の展望として、今回の研究で取り組んだ「アイプラザ半田」の利活用以外にも、半田運河及び周辺地域、半田運河を軸として存在する既存施設の利活用も同時に進めていく必要性を感じた。また、半田市では見どころとなるエリアが市内に点在しているため、今後はそれらの地域をどのように連携させていくかも鍵になると考えられる。よって、今後の研究では、半田市街地のみならず、他地域にも目を向けて、継続的に活性化のまちづくりに取り組んでいく予定である。